

## 食品安全基本法第24条に基づくクロチアニジンの食品健康影響評価について

### 1. 経緯

クロチアニジンについては、農薬取締法に基づくほうれんそう及びはくさい等への適用拡大申請に伴い、平成22年11月に、農林水産省から厚生労働省へ基準値設定の要請がなされた。その後、平成25年6月に、食品安全委員会による食品健康影響評価の結果を踏まえ、薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会で残留基準改正について審議を行い、同年10月に同分科会に報告し、消費者庁協議を終了した。

しかし、同年10月4日～11月2日に実施したパブリックコメントの募集において、1657件の意見が寄せられたことから、その内容を精査すると共に、今後の対応について検討を行ってきたところであり、今般、その結果等を踏まえ、再度、急性参照用量（ARfD）の設定等を含め食品健康影響評価を依頼することとした。

### 2. 評価依頼の概要

パブリックコメントにおいて多くの意見が寄せられた中に、毒性に関する意見がいくつか寄せられており、その中に本剤の急性影響を懸念する意見も含まれていた。

また、ARfDを考慮した基準設定に向けては、平成22～24年度に厚生労働科学研究を行い、食品の摂取量に関するデータベースの作成など推定摂取量の算定について、検討を行ってきたところであり、概ねその準備が整ったところである。

これらのことから、クロチアニジンの現在の基準値案については、我が国においてもARfDを考慮した基準設定について概ね準備が整ったことから、パブリックコメントを踏まえ優先的にARfDの設定を依頼し、それを考慮した上で基準設定を行うこととした。

なお、発達神経毒性試験等に関する文献を新たに入手したことから、併せて提出することとした。

### 3. 今後の対応

食品安全委員会における食品健康影響評価の結果を踏まえ、薬事・食品衛生審議会において、当該農薬の残留基準改正に係る再審議を行う予定である。

## 前回評価依頼時より追加されたデータ

①Reproductive and neurobehavioral effects of clothianidin administered to mice in the diet.

著者 : Tanaka T.

雑誌名 : Birth Defects Research (Part B) 95:151-159, 2012.

②Effects of maternal clothianidin exposure on behavioral development in F<sub>1</sub> generation mice.

著者 : Tanaka T.

雑誌名 : Toxicology and Industrial Health. 2011.

③Effects of clothianidin exposure on sperm quality, testicular apoptosis and fatty acid composition in developing male rats.

著者 : Bal R, Türk G, Yılmaz Ö, Etem E, Kuloğlu T, Baydaş G, Naziroğlu M.

雑誌名 : Cell Biol Toxicol. 28:187-200, 2012.